

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																		
大阪ビューティーアート専門学校	平成15年4月1日	徳 幸道	〒123-1234 東京都千代田区霞が関3-2-2 (電話) 03-6734-2939																		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																		
学校法人三幸学園	昭和60年3月8日	昼間 一彦	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																	
衛生	衛生専門課程	美容科	平成17年文部科学省告示第30号	-																	
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づきプライダル業界の関連分野において、活躍する人材を育成する為、必要とされる知識・技能を教授することを目的とする。																				
認定年月日	平成28年2月19日																				
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技															
2年	昼間	73単位	20	27	28	時間 時間															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																
400人	381人	3人	44人	19人	63人																
学期制度	■1学期:4月 1日～9月28日 ■2学期:9月29日～3月31日		成績評価		■成績表: (有) ■成績評価の基準・方法 (1)テスト(2)研究物・レポート・宿題等 (3)製作物及び実習																
長期休み	■学年始: 4月 1日～4月10日 ■夏季: 7月22日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月 8日 ■学年末: 3月21日～3月31日		卒業・進級条件		所定の修業年限以上在籍し、所定の単位時間数の単位を取得した者について卒業認定科目の認定基準は、学年評定2以上5分の4以上の出席																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ■長期欠席者への指導等の対応		課外活動		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 海外研修・ボランティア・コンテスト等																
就職等の状況※2	電話連絡・三者面談・校内カウンセリング		主な学修成果(資格・検定等)※3		■サークル活動: 有																
	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 美容室・アイラッシュ・ブライダル・フォトスタジオ等の美容業界				■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																
■就職指導内容 希望サロン斡旋・履歴書添削・面接練習		■卒業生数 187 人 ■就職希望者数 177 人 ■就職者数 177 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 94.6 % ■その他 ・進学者数: 0人		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美容師国家資格</td> <td>②</td> <td>187人</td> <td>178人</td> </tr> <tr> <td>サービス接遇検定3級</td> <td>③</td> <td>373人</td> <td>296人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルのコーディネーター検定レベル③</td> <td>③</td> <td>313人</td> <td>288人</td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	美容師国家資格	②	187人	178人	サービス接遇検定3級	③	373人	296人	パーソナルのコーディネーター検定レベル③	③	313人	288人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
美容師国家資格	②	187人	178人																		
サービス接遇検定3級	③	373人	296人																		
パーソナルのコーディネーター検定レベル③	③	313人	288人																		
(平成 28 年度卒業生に関する平成29年5月1日 時点の情報)		■中途退学者 32 名		■中退率 8.1 %																	
中途退学の現状		平成28年4月 1日時点において、在学者393名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者363名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 経済的問題・進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 定期的な担任面談で退学要因を早めに発見 保護者会の実施し連携をとり情報共有し保護者と共に考える体制を整えている。																			
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度等 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 対象者0名																			
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																			
当該学科のホームページURL		<a href="http://www.sanko.ac.jp/osaka-beauty/">http://www.sanko.ac.jp/osaka-beauty/</a>																			

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者を含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

美容業界との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や目標検定設定、授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

またサロン実習(美容室等)を通し、美容業界現場で実践的な技術を習得するとともに、業界の動向や求められる人材を把握するため、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容シラバスやカリキュラムに反映する。また実務能力レベルを計る資格・検定取得に向けても取得率の向上に向けて学習指導方法の見直し、改善に努めることも目的としている。さらに実習先である美容業界に対し、アンケート等を実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのごとによって得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会構成員は、大阪ビューティーアート専門学校と企業関係者等の役員者から成るものとし、審議を通じて示された施設等の要請その他の情報・意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

【教育課程編成の基本方針決め・前年の問題点抽出】

本学のカリキュラム、取り組み、人材育成像など共有を行わせていただいた上、美容業界における必要な人材についてお話し頂いた。その人材育成に向けての専攻分野に關した動向や新たに必要となる人材スキル等の業界の実情をヒヤリングし、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。さらに、前年度の問題点をピックアップし、業界の外部委員からの見識のある改善意見も集約する。

↓

【教育課程編成の科目詳細決め】

委員会構成員の中の大阪ビューティーアート専門学校教員によって、各科目の詳細を決定し、また、集約した改善意見も教育課程に反映させ、次年度の教育課程の仮案を完成させる。

↓

【BA委員会(各ビューティーアート専門学校代表教員による分野会議)にて教育課程編成の決定】

委員会構成員の中の大阪ビューティーアート専門学校教員による教育課程の仮案に基づいて、再度、BA委員会で協議をし、次年度の教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月23日現在

名前	所属	任期	種別
川島 健	社団法人 一生美容に恋する会	平成28年10月1日～平成30年3月31日	①
松原 進	モリオ・フロム・ロンドン	平成28年10月1日～平成30年3月31日	③
森崎 成騎	JOB SHOP 合同会社	平成28年10月1日～平成30年3月31日	③
加藤 裕美	学校法人 三幸学園 大阪ビューティーアート専門学校	平成28年10月1日～平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年、年2回実施するものとする。ただし、委員が緊急に教育過程の改善が必要であると判断した場合には、随時、委員会開催を申し入れる事ができると言った弾力的な体制を取っている。

(開催日時)

第1回 平成29年6月14日 16:00～17:00

第2回 平成30年1月16日 16:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

美容の技術や知識はもちろんであるが接客に必要な基本的なマナーは、必ず身につけて卒業させてほしいとの要望を受け、挨拶の徹底・清掃、整理整頓に力を入れ指導にあたっている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係																								
<p>(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針          基本方針として「お客様を美しくすることに感謝される」「サロン・組織を活性化させる人材を育成する」という方針のもと美容室・ブライダル業界等との連携で実践的かつ専門的な職業教育を実践していくこと。          美容・ブライダル業界においては技術力と接客力が重要であるということは不変のものであり、双方を兼ね備えることで長く業界で活躍することで、業界の発展にも繋がっていくことから、本校教育理念である「技能(知識・技術・理論)」と「心(人間教育・対人基礎力)」の調和をもとに授業計画から本校教員も参加し、「技術・理論の習得レベル」及び「マナー」「コミュニケーション」など現場に即した内容を検討、そして定期的に授業の振り返りを行い継続的かつ改善工夫を実施している。          企業等と連携することで、より早く現場の変化や課題に対しての対応及び教育への反映し、本校そして業界の求める「人材の育成」に貢献できると考える。</p>																								
<p>(2)実習・演習等における企業等との連携内容          1年次後期1週間(5日間)それまで学んだ知識・技術だけでなく業界の全体的な組織、機能及び接客マナーや技術を理解する事を目的に、予め実習を受諾いただいた企業において実施している。実習期間終了後は実習成績評価として「能力」「生活態度」「実習態度」の評価とフィードバックをいただくこととしている。また着付けを必修科目に入れ通年で実施。授業を通して美容業に欠かせない挨拶・マナー・言葉づかいなどの礼節並びに振る舞い・行動など所作を身につける。</p>																								
<p>(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th colspan="3">連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>着付け</td> <td>美容業界では長年、着付けの技術は必要不可欠であり、着付けを学ぶことで卒業後の仕事の幅が広がり、活躍の場も増える。授業では技術はもとより礼節や所作などを現場の方から毎週継続して学ぶことで、接客スキルを向上させる。日本の美容文化への意識及び技術習得の必要性を認識し、向上心を養う。</td> <td colspan="3">京都市のコンサルタント協会</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3"></td> </tr> </tbody> </table>					科目名	科目概要	連携企業等			着付け	美容業界では長年、着付けの技術は必要不可欠であり、着付けを学ぶことで卒業後の仕事の幅が広がり、活躍の場も増える。授業では技術はもとより礼節や所作などを現場の方から毎週継続して学ぶことで、接客スキルを向上させる。日本の美容文化への意識及び技術習得の必要性を認識し、向上心を養う。	京都市のコンサルタント協会												
科目名	科目概要	連携企業等																						
着付け	美容業界では長年、着付けの技術は必要不可欠であり、着付けを学ぶことで卒業後の仕事の幅が広がり、活躍の場も増える。授業では技術はもとより礼節や所作などを現場の方から毎週継続して学ぶことで、接客スキルを向上させる。日本の美容文化への意識及び技術習得の必要性を認識し、向上心を養う。	京都市のコンサルタント協会																						
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係																								
<p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針          実践的かつ専門的な職業教育を実施し、美容・ブライダル業界・教育業界を担う「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで社会に貢献できる人材」「お客様を美しくすることで感謝される。サロン・組織を活性化できる人材」を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、以下のとおり教員研修の環境を整える。          ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修          ・指導力の修得・向上のための研修          ・アクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修          なお、当該研修等を計画的に教員に受講させるにあたり諸規定に定められている。</p>																								
<p>(2)研修等の実績          ①専攻分野における実務に関する研修等          美容業界・ブライダル業界が求める人材像と必要される専門知識・資質を代表取締役や現場支配人の方々を講師ら迎え教員の授業力向上のための研修を実施している。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>平成29年1月11日</td> <td>株式会社ガモウ関西 馬場 考哉</td> <td>メイクについて</td> <td>実技教員</td> <td>フォト作品を作る際のメイクのポイント</td> </tr> <tr> <td>平成29年2月9日</td> <td>株式会社ガモウ関西 馬場 考哉</td> <td>フォトコンについて</td> <td>実技教員</td> <td>写真の撮り方やフォトコンで賞を狙うための研修</td> </tr> <tr> <td>平成29年9月29日</td> <td>株式会社セイファート</td> <td>美容業界における動向</td> <td>全教員</td> <td>美容業界の現在から今後についての研修</td> </tr> </tbody> </table>					平成29年1月11日	株式会社ガモウ関西 馬場 考哉	メイクについて	実技教員	フォト作品を作る際のメイクのポイント	平成29年2月9日	株式会社ガモウ関西 馬場 考哉	フォトコンについて	実技教員	写真の撮り方やフォトコンで賞を狙うための研修	平成29年9月29日	株式会社セイファート	美容業界における動向	全教員	美容業界の現在から今後についての研修					
平成29年1月11日	株式会社ガモウ関西 馬場 考哉	メイクについて	実技教員	フォト作品を作る際のメイクのポイント																				
平成29年2月9日	株式会社ガモウ関西 馬場 考哉	フォトコンについて	実技教員	写真の撮り方やフォトコンで賞を狙うための研修																				
平成29年9月29日	株式会社セイファート	美容業界における動向	全教員	美容業界の現在から今後についての研修																				
<p>②指導力の修得・向上のための研修等          「アクティブラーニング」授業風景を共有し更に積極的な授業への取り組み、能動的に学習する手法を学ぶ研修を実施する。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>平成29年3月31日</td> <td>三幸学園 教育開発部 坂根 みのり</td> <td>生徒指導について</td> <td>全教員</td> <td>可能性を引き出す教育についての研修</td> </tr> <tr> <td>平成29年5月11日</td> <td>社団法人 一生美容に恋する会 川島 健</td> <td>一生美容業界で生きる</td> <td>実技教員</td> <td>美容業界離れ(離職率増)についての現状の把握と対策についての研修</td> </tr> <tr> <td>平成29年7月31日</td> <td>三幸学園 教育開発部 石田 範之</td> <td>技術向上をさせるための伝え方</td> <td>実技教員</td> <td>実技指導に関する教育研修</td> </tr> </tbody> </table>					平成29年3月31日	三幸学園 教育開発部 坂根 みのり	生徒指導について	全教員	可能性を引き出す教育についての研修	平成29年5月11日	社団法人 一生美容に恋する会 川島 健	一生美容業界で生きる	実技教員	美容業界離れ(離職率増)についての現状の把握と対策についての研修	平成29年7月31日	三幸学園 教育開発部 石田 範之	技術向上をさせるための伝え方	実技教員	実技指導に関する教育研修					
平成29年3月31日	三幸学園 教育開発部 坂根 みのり	生徒指導について	全教員	可能性を引き出す教育についての研修																				
平成29年5月11日	社団法人 一生美容に恋する会 川島 健	一生美容業界で生きる	実技教員	美容業界離れ(離職率増)についての現状の把握と対策についての研修																				
平成29年7月31日	三幸学園 教育開発部 石田 範之	技術向上をさせるための伝え方	実技教員	実技指導に関する教育研修																				
<p>(3)研修等の計画          ①専攻分野における実務に関する研修等</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>平成29年11月23日</td> <td>Hair Stylist 波多 晋</td> <td>夢・目標を叶える力 メイクの仕事</td> <td>全教員</td> <td>諦めないことの大切さ 海外でのヘアメイクの仕事について</td> </tr> </tbody> </table>					平成29年11月23日	Hair Stylist 波多 晋	夢・目標を叶える力 メイクの仕事	全教員	諦めないことの大切さ 海外でのヘアメイクの仕事について															
平成29年11月23日	Hair Stylist 波多 晋	夢・目標を叶える力 メイクの仕事	全教員	諦めないことの大切さ 海外でのヘアメイクの仕事について																				
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>平成30年3月29日</td> <td>(株)アビリティトレーニング 木下 晴彦</td> <td>魂を揺さぶる人材教育</td> <td>全教員</td> <td>学生をやる気にさせる指導方法・考え方</td> </tr> </tbody> </table>					平成30年3月29日	(株)アビリティトレーニング 木下 晴彦	魂を揺さぶる人材教育	全教員	学生をやる気にさせる指導方法・考え方															
平成30年3月29日	(株)アビリティトレーニング 木下 晴彦	魂を揺さぶる人材教育	全教員	学生をやる気にさせる指導方法・考え方																				

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供し学校・企業間の共通理解を深め、教員活動を活性化させ学校運営をより円滑化させる。また、学生の就職先・実習先として関連の深い企業の各関係者に、本学職業実践専門課程についての理解を深めてもらい、さらに連携・協力の推進に資するために、本学の教育活動・学校運営の状況・情報を積極的に提供する。そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。  
 (3) 学校関係者評価結果の活用状況

各項目ごとに話し合われた評価から改善点をあげ学校内外(授業・行事・サロン実習)での学生育成に役立てられる対策を考え  
 実行し改善をしていく。また改善に向けての対策や実施した結果を次回の学校関係者評価委員会で共有事項とする。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 直子	株式会社 ナリス	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
小峯 英樹	有限会社 ビーバス	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
高橋 美穂	飛鳥未来高等学校 大阪キャンパス	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
岡本 唯	TB科 エステコース6期	平成28年4月1日～平成30年3月31日	卒業生
村田 真利亜	HD科 美容科7期	平成28年4月1日～平成30年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( )  
 URL : <http://www.sanko.ac.jp/osaka-beauty/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針  
 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供し学校・企業間の共通理解を深め、教員活動を活性化させ学校運営をより円滑化させる。また、学生の就職先・実習先として関連の深い企業の各関係者に、本学職業実践専門課程についての理解を深めてもらい、さらに連携・協力の推進に資するために、本学の教育活動・学校運営の状況・情報を積極的に提供する。そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	●三幸学園について(事業案内、経営理念、歴史)
(2) 各学科等の教育	●三幸学園の教育 ■学科・専攻紹介 ●資格・就職
(3) 教職員	●講師紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	●病院実習 ●就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	●施設紹介 ●企業・地域コラボレーション
(6) 学生の生活支援	●サポートシステム ●学生寮・一人暮らし
(7) 学生納付金・修学支援	●募集学科・学費 ●学費サポート制度
(8) 学校の財務	●監事監査報告書 ●資金収支計算書 ●消費支出計算書 ●貸借対照表 ●財
(9) 学校評価	●自己点検自己評価・学校関係者評価委員報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。  
 (3) 情報提供方法

URL: <http://www.sanko.ac.jp/osaka-beauty/>

授業科目等の概要

(衛星専門課程美容学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			美容保健Ⅰ	人の身体の構造や機能を理解し、健康に保つ方法や疾患など、美容と健康の関わりについて学びます。	1年	66	2	○			○			○		
○			美容保健Ⅱ	皮膚付属器官の構造及び機能、毛髪などの構造・機能の知識を美容技術と関連させて学びます。	2年	66	2	○			○				○	
○			美容文化論	美容文化史、美容デッサン、服飾・ファッション・デザインの変遷、色彩や表現方法などについて学びます。	1年	99	3	○			○			○		
○			美容運営管理	サロン経営に必要な経営管理、労務管理、接客法、マーケティングなどの知識・手法を学びます。	1年	66	2	○			○			○		
○			美容技術理論Ⅰ	基礎から特殊技術までの器具の取り扱い、その目的や種類、特徴、技術上の注意点について学びます。	1年	66	2	○	△		○			○		
○			美容技術理論Ⅱ	エステ・メイク・ネイル・着付け・まつ毛エクステンションなど美容全般の技術と理論について学びます。	2年	66	2	○	△		○			○		
○			関係法規・制度	衛生行政、美容師法など、美容に係わる法律について学び、知識を深めます。	2年	33	1	○			○			○		
○			衛生管理	公衆衛生について学び、感染症と環境衛生、消毒の義務や目的など、サロンにおける衛生管理を学ぶ中で、衛生面についての理解を深めます。	2年	99	3	○			○			○		
○			美容物理・化学	美容機器・香粧品を適正に取り扱うために、機械器具、香粧品の働きを理解し、正しく取り扱う上で必要な科学的知識を学びます。	2年	99	3	○			○			○		
合計				科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛星専門課程美容学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			美容実習Ⅰ	用具類の規格について説明。美容師国家試験第2課題を中心に第1課題、衛生までの範囲を学ぶ。シャンプーの基礎も取り入れハンドブローまでの技術を習得。	1年	426	14			○	○		○		
○			美容実習Ⅱ	美容師国家資格第1・2課題、衛生面を中心に知識・技術を習得し、美容師国家試験合格を目指す。	2年	432	14			○	○		○		
	○		ビジネス マナー	検定取得を目指し、敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など、社会人としての考え方をはじめ、ルールやマナーを学ぶ授業です。	1年	66	2	○			○		○		
	○		カラー& ファッション	フットジョブコーディネートの現場で即戦力となるように、色に関する知識、法則、技法を理論的かつ実践的に身に着けます。パーソナルカラーコーディネートの資格取得を目指します。	1年	66	2	○			○		○		
	○		着付け	着物文化の指導者としての検定取得を目指し、着付けの技術や着装の指導など、着物全般に対するアドバイスを行うための知識を習得します。	2年	66	2	△	○		○			○ ○	
	○		ヘアアレンジ	前期にホットカーラー、ヒフうち、ホーテール、編み込みなどの基礎テクニックを習得し、後期には夜会巻きや成人式などの行事ごとに活用できるアレンジテクニック習得を目指します。	1年	99	3	△	○		○		○		
	○		未来デザイン プログラムⅠ	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	1年	33	1	○			○		○		
	○		未来デザイン プログラムⅡ	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	2年前期	16	1	○			○		○		
	○		総合技術Ⅰ	メイクアップ、パーマ・カラー、花嫁着付け、ネイル、ブライダル知識などの美容に関わる科目全般を選択履修。幅広い基礎技術・知識の習得。	1年後期	34	2	△	○		○			○ ○	
合計			科目		単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(衛星専門課程美容学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		総合技術Ⅱ	メイクアップ、パーマ・カラー、花嫁着付け、ネイルなどの美容に関わる科目全般を選択履修。応用技術・深い知識及び実践力を身につける。	2年前期	32	2	△	○		○			○	
	○		美容演習Ⅰ	メイクアップ検定や、ネイル技能検定などの資格取得に向け、幅広い知識と基礎技術を習得する。	1年後期	68	2	△	○		○			○	
	○		美容演習Ⅱ	メイクアップ検定や、ネイル技能検定などの上級資格取得に向け、応用から実践まで深い知識と実践力身につける。	2年前期	64	2	△	○		○			○	
	○		美容技術	メイク、美容院で働くに当たり必要な技術・知識を学ぶ。ベーシックメイク、パーソナルメイク、ブライダルメイクなど。	2年前期	132	4	△	○		○			○	
	○		就職対策Ⅰ	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定後までの流れを指導します。	1年通	33	1	△	○		○			○	○
	○		就職対策Ⅱ	就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定後までの流れを指導します。	2年通	33	1	△	○		○			○	○
合計						24科目					2260単位時間(			73単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<b>【履修方法】</b> ●講義及び演習科目については15時間から30時間の授業をもって1単位とする。実習及び実技科目については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。各科目授業内テスト（実技科目の評価方法は実技・筆記テストを原則実施）の100点満点での素点からの5点法による評定とし、「2」以上でその科目の履修と見なす。 <b>【進級・卒業要件】</b> ●授業科目の履修を終了した者には、認定のうえ単位を与える。単位の認定については、各科目における試験及び演習・実習の評価によるものとする。単位制学科の卒業認定に必要な単位数は62単位とする。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	前期16週 後期17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。